

2024年2月3日(土)夜『神聖で繋がり合う日』 メール前文と始めの話

2024年2月3日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 メール前文

この世に生じている不調和な状況や人類のネガティブな想念言行、それらはすべて広義な意味での消えてゆく姿ですが、それらに対して「こうやって現わして消していただいているんだ」と心底から守護の神靈に感謝できる場合、その人は一旦は認識した把われをすでに手放している、といえます。そのような意味で「消えてゆく姿」は、「手放してゆく姿」だともいえます。

そのことを踏まえ、見聞きしたことや縁ある人々の言動行為になんら一切の批判・非難・評価も下さず、すべてに対して人類即神也に至る途中経過と見定め、「〇〇の天命が完うされますように」と唯々意宣(いの)れる神聖の視座を確立するためには、今日までの認識の大前提となっていた“記憶”をいさぎよく手放す必要があります。この『認識の大前提としての記憶』には、大別して以下の二パターンがあります。

【この世における認識の大前提になっていたもの】

- ◎肉体に誕生してから今日までの間に、記憶へ刷り込んできた真理ならざる認識の数々
- ◎過去世を通して積み重ねてきた自己保存の本能的条件反射の数々

私達が長い間、消えてゆく姿を手放せなかった理由は、意識・無意識にかかわらず、こうした誤てる認識や条件反射が習い性になっていたためです。そこで、「今までの認識の習慣を、神聖の認識に改めるにはどうすればよいのだろうか？」と未来を見据える段階に入ってまいります。

そのために必要な行動は、私達が“肉体意識の認識の大前提となっている記憶”をいさぎよく手放すために、普段何気なく想念言行している認識や条件反射のすべてを、生命の源の段階にまでさかのぼって初期化することです。そうすることで、神聖そのものの認識が甦ります。その神聖に初期化された認識は、次のようなものだといえます。

【神聖に初期化された認識として再起動された意識に展開する事々】

- 我は神であり人もまた神であった。
- 自然も生きとし生けるものも、宇宙空間も星々も、宇宙創造神の意志によって具現化されていた。
- 故に、この世界に在ると見えるすべては神聖によって成り立っていた。(この世界には神聖ならざるもののは一切なかった。)
- 神聖が在らしめるすべてに存在意義があった。(不必要的現われは何一つとしてなかった。)
- 世界に生ずるあらゆる出来事や状況は必然であった。(出来事や状況は抗(あらが)わなければ大調和へと導かれてゆく性質を持っていた。)
- すべての人類は宇宙創造神が具現化した生命体であり、宇宙創造の意志を分担して担当していた。
- 人類が体験する分離の経験は、星々を開発するプログラムに組み込まれた体験すべき通り道であり、それがそのまま個々人の魂開発と連動していた。

こうした言葉を目にしてそれらを当たり前と思えない場合は、今まで当たり前だと認識していた“真理を忘れていた時代の認識”が、どのような傾向を持っていたのかを、言語化して客観視することで、そこを抜け出す糸口とすることが出来ます。

【真理を逸脱した認識に共通する設定】

- *部分に焦点を合わせて見がち（全体を認識出来ない）
- *違いに焦点を合わせて見がち（共通項を認めらない）
- *何事も過去と結び付けて見がち（未来志向のまっさらな認識を持ってない）
- *根源の「一」を忘れ果て実感できない（全体認識を忘却したため無意識の内に調和を乱す）

上記の傾向を知り、神聖の視座に意識波動を同調する対策を取ることで、私達は神聖を忘れていた時代の想いの性質（癖）を卒業して、何事も俯瞰の立ち位置から観察することが出来るようになります。それは、“意識の軸を左脳から右脳に引越しして全体を俯瞰する視野で生きること”ともいえますし、“臍下丹田に意識の軸を置いて生きること”ともいえます。その根底にある意識進化の原動力は呼吸であります。

私達肉体人間は、起きている間中の呼吸をユッタリとしたリズムに変える練習をし続けてゆくことで、誰もが無理なく意識を神聖に初期化することが出来ます。悠々とした呼吸は宇宙のリズムであり、そこに一日中の呼吸を合わせて（チューニングして）ゆくことでそれが可能になります。またそれは、臍下丹田に心の軸が鎮座した状態でもあります。

土曜日の夜はそのように、常時の呼吸を落ち着かせ、毎日・毎時・毎分・毎秒・毎瞬を神聖の視座で生きるきっかけとなるプログラムを行ないます。私たちが真に変わることで、まず私達の人生が根底から変わり、嘘偽りなく神聖の人生を生きる人が増えれば、それが周囲の人達に波及してゆくことに繋がります。今回はそのように呼吸に焦点を合わせ、神聖における繋がりを実感する時間としてまいります。

2024年2月3日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 始めのお話

皆様、こんばんは。夜のズーム祈りの会を始めます。本日はメールにも書きましたように、日常生活の呼吸がユッタリとしたリズムに変わる、そういうきっかけになる時間にしたいと思います。もうすでにそうなっておられる方は、ここに参加しておられる全員が、特に深い呼吸を意識しなくとも、普段から自然に深呼吸しているような状態に変わることを、応援してくださいますようお願い申し上げます。

“真理を行ない表わす”ことに意識を向けないで過ごしていた時代を振り返りますと、“生きてゆくうえで、これ以上に大切なことはないはずの呼吸”をおおざりにして、無意識に任せて息を吸ったり吐いたりしていました。

ユッタリとした呼吸がよいということは、世間一般的に、健康上からの理由からも、精神衛生上の理由からも色々と語られ、本などもたくさん出版されております。また、「宇宙そのものも呼吸をしている。その呼吸は肉体の常識で考えると気が遠くなるような長い呼吸ではあるが、宇宙そのものも確かに呼吸をしている。」という話を聞いたことがある方もおられると思います。

私達がゆっくりとした呼吸で過ごすことの本当の意義は、宇宙生命と一体化とまではゆかなくとも、宇宙生命そのものに少しでも近づいた意識で、心と体を運用することにあります。また、私がいつも「普段の呼吸をゆっくりとするのがいい」と思っている理由は、神我一体感を促進するうえでものすごい力になるということを、心と体で実感・体感したからです。

健康な人であれば、呼吸という行為は、「吸おう」「吐こう」と思わなくても、放っておけば体さんが息を吸い込み、吐き出してくれています。それは命の力によって行なわれます。守護の神靈が呼吸をさせてくださっている、という見方もあります。

しかし、命の力が呼吸させてくださっているにしても、守護の神靈が呼吸させてくださっているにしても、無意識で呼吸をしている場合には、どちらにしても呼吸が持つ本来の力・ポテンシャルを発揮することが出来ません。どうしてかと申しますと、肺の底に吐き出し切っていない残存吸気、吸った息が残り続けているからです。

私は2010年の秋から、起きている間中、呼吸法などという大層なものではなく、一日中の当り前の呼吸をゆっくり行なうという取り組みをしてきました。それによって、短気でマイナス志向な想いの癖が薄まり、まるで人間が変わりました。私がした事は、起きている間の普段の呼吸をゆっくりしたリズムで行なう練習だけでした。それが思っていた以上に大きな効果があることを知ったのはつい最近です。

その効果は色々ありますが、一番大きな成果は特に精神統一をしなくとも、臍下丹田に意識が收まり続けて、感情想念のアップダウンが少くなり、肉体の自分を自覚している表面意識と同時に、それを奥から、ただ見つめて観察している自分を、同時に自覚するようになったことでした。

「神聖の立ち位置」「俯瞰の視座」という言葉をよく使いますが、それは臍下丹田を通して、表面意識が靈界・神界へと吸い上げられ、その代わりに靈体や神体の意識が肉体の顯在意識に現われてきている状態であります。そのような意味で、臍下丹田は天と地の出入口、ポータルだといえます。

本日は、はじめに約9分ほどの世界平和の祈りを行ない、ワンネスマディテーション、五感の次元上昇の宣言をした後に、10分ほど、普段の呼吸をゆっくりと行なう練習を間に挟んで、地球世界への感謝の印を行ない、神聖復活の印を七回組んで、最後に世界平和の祈りで終わりにいたしますので、よろしくお願ひいたします。

では時間になりましたので、世界平和の祈りを日本語と英語で行ないます。それでは始めます。